

病いの共同体

ハンセン病療養所における患者文化の生成と変容

日本のハンセン病療養所の運営は、社会学者E・ゴフマンの著書「全制的施設」の典型的な例だった。ハンセン病と診断された者は強制的にそこに離収容され、生活の全局において療養所の規律に従って生きることを強いられた。

は、外部世界のあらゆる差異を持ち込まないことが必要とされた。しかし多摩全生園ではそれらとは異なる

集団的記憶を歴史に書き残す

丁寧な聞き取り調査で生活のディテイルを浮かび上がらせる

武 田 徹

病いの共同体



A5判・316頁・3600円
新曜社
978-4-7885-1412-6

物質化・可視化させ、共同
体を維持する韁帶として機
能してきた。

しかし、そんな資料館が
国賠訴訟を機にリニューアー
ルされ、人権侵害に焦点が
当たる構成に変わる。それ
は元黒著コミュニティの集
団的記憶の依り代になること
から、強制隔離を巡る
「負」の歴史を国民的に忘
却しないための装置へと様
変わりした。

だがコミュニケーションの記憶まで喪失してしまっては、ハンセン病医療史の正しい姿を後世に伝えることはできない。本書はただ学術書として価値が有るだけでなく、元患者たちの名前回復がなされた背景でかえつて喪失の危機に瀕している療養所コミュニティの集団的記憶を元患者の高齢化の進む中で歴史に書き残すと

員) おる氏||ジャーナリスト・評論家・恵泉女子学園大学教
授のあおやま・ようじ氏は成城大学他非常勤講師・スディゲマの社会学・質的調査専攻。東京大学大学院博士課程単位取得退学。論文に「地域生活支援の現場で働く」など。

だがコミュニティの記憶まで喪失してしまっては、ハンセン病医療史の正しい姿を後世に伝えることはできない。本書はまだ学術書として価値が有するだけではなく、元患者たちの名著回復がなされた背景でかえつて喪失の危機に瀕している。療養所コミュニティの集団的記憶を元患者の高齢化の進む中で歴史に書き残すと

員) いう重要な役割を果たしたといえよう。(たけだ・とおる氏) ジャーナリスト・評論家・恵泉女子園大学教

2015.1.13

アーダ・エクバーグ死去。葬儀離脱報告をする。彼は賛美

を売るけれど自分は飲んだ

校正。

早朝から公園で自伝グラ

に本年初出勤。今年一年ま

たお世話になります。山田

なし。「細屋の『日榜』とい

うことも健康診断もしたこと

が、わが健康には無頓着。

200メートル弱の距離便

で納豆、しらず大根おろし、

生玉子めし食す。質素は贅

沢なり。

一年振りに神津善行さん

に会つ。物識の博士83歳元

桂花で夏食のあとアルフ

スでゲラの続き。中高年婦

乗せし。

桂花で夏食のあとアルフ

スでゲラの続き。中高年婦

乗せし。

舟橋聖一 東宝スタジオ

駅前に向かう途中、山田

さんの車に呼び止められ、

200メートル弱の距離便

で納豆、しらず大根おろし、

生玉子めし食す。質素は贅

沢なり。

舟橋聖一 東宝スタジオ

駅前に向かう途中、山田

さんの車に呼び止められ、

200メートル弱の距離便

で納豆、しらず大根おろし、

生玉子めし食す。質素は贅

沢なり。

週刊コヤロン 短命顛末記

水口 義朗

第78回

真に「By the sword」と

いう小見出しと当日の経過が報道されていたと書き、自らの訳文を載せていました。

△浅沼は、皮肉にも自分

自身が暴力の雰囲気を作り出したことの大責任者である。レッド・チャイナを讃美し、アメリカを、中共と

つけたことに飽きなかつた。社会の動きにも柔軟なままで現われた民衆煽動家浅沼こそは、

日本の共通の敵として呼びで銳い発言をした。

当時安保騒動の余波はさ

まざまなかたちで現われた。60年10月12日には、日

比谷公会堂で右翼少年山口

医大へ向かった。容疑者姿、

真夜中に息を引きとった。

二矢に浅沼稲次郎が刺殺さ

れた。実は中央公論社にも

『週刊コヤロン』の安保報道

の記事に対し、7月に右翼の護国団が計3度、抗議に訪れていた。デスクの京谷

義らと共に、河原崎長十郎

を中心とする新劇団「心座」

を結成する前後を描いた長

女子大生の口述筆記で原稿編。たぶん未完だったと思

う。単行本にはそうしるし

ていながら、最終回なら、

11月の著者校のとき、「こ

れで完結だ、やれやれ」く

らいの言葉があつてしかる

べきだがその記憶はない。

舟橋聖一については著書

『文藝的グリンプス』)の

項目では、アメリカの週刊誌

のスヌーク・デモ——蛇行

する行進と右翼のテロを、

ごっぢやにしているといふ



舟橋聖一 東宝スタジオ

文士、舟橋聖

一さんの心意

一氏(61年10月号)

を通じた見事

戦時中、軟派

『タイム』の10月24日号を

読んでいたら、山口二矢に